この日の打ち合わせに集まったのは、（左から）中原秀明さん、下原泰さん、田端功さん、筒井光夫さん、坂本政司さん、諸田強さん、大窪成子さん、中野重男さん。

自分たちの手で、できることから

それぞれが抱える不安やアイデアを共有し、できることから始めよう。「ＫＭ会」による、久野脇区の未来のための挑戦が始まっています。

動き始めた住民有志

久野脇区の集落の一角。日暮れとともに「ＫＭ会」のメンバーが集まり始めました。

「ＫＭ会」（＝久野脇の未来を考える会）のメンバーは、現在11人。筒井さんの思いに賛同した住民や出身者たちで、1年前に結成しました。

「キャンプ場の役員をしているが、自分も含め高齢化は深刻。後継者のことも含め不安に思っていた」。「普段は島田で仕事をしていて、ここにいるのは朝と晩だけ。でも、前に区長を任されたとき、地域のいろいろな課題を改めて知って、これはまずいな、と」。諸田強さんと田端功さんは、それまでの心境をそう話します。「そんなとき、筒井さんから『久野脇のこれからを一緒に考えていかないか』と声を掛けてもらった。何ができるか分からないけど、何かしなければ、という思いはみんな持っていたからね」（諸田さん）。

住民それぞれが漠然と抱いていた不安や危機感。まずは、それを皆で共有し、「できることからやってみよう」という活動がスタートしました。

地道に積み重ねて

「キャンプ場と恋金橋、そして『縁結び』のパワースポット。地域の中で散策してもらえるように、それぞれの観光地を線でつなげることが大事なの

ウォーキングイベントでおもてなし

４月16日、ＪＲ東海が主催するウォーキングイベント「さわやかウォーキング」が町内で開催されました。

これに合わせて、ＫＭ会と同会の呼び掛けで集まった住民も、区内のコース周辺にて川根茶や焼きシイタケなどの特産品を提供・販売して参加者をもてなしました。

「自分たちが生活している集落でも、たくさんの人が楽しそうに散策してくれる。ぶしょったい(みっともない)所は見せられないな、という気持ちが強くなった」とメンバーが振り返るように、集落の持つ観光コースとしての価値について見直す機会となりました。

「集落めぐり」でガイドに挑戦

２月26日、エコティかわね主催の集落めぐりとハナモモ植樹を体験するモニターツアーが久野脇区内にて開催され、町外から14人が参加しました。

実施にあたっては、ＫＭ会を中心とする地元住民が、エコティかわねとともにツアー内容を企画し、当日までガイドの練習を重ねて「おもてなし力」を磨きました。

ガイドに挑戦したメンバーは「まずは地元住民が地域のことを知り、その魅力を発信できることが大切だと感じた」「ハナモモの成長を見に来てくれる参加者に、継続しておもてなしができたら」と手応えを口にしました。

❶地元住民ならではの説明に参加者も興味津々。
❷参加者と協力してハナモモを植樹。
❸またの再会を約束して記念撮影。

では」。今、久野脇にある地域資源を見直し、回遊性を高めていく取り組みが重要と、メンバーは口をそろえます。

「お茶が下り勾配になってしまうと、やっぱり集落も元気がなくなっていくように感じる」と話すのは、下原泰さん。住民に茶農家の多い久野脇区で、観光客の呼び込みを地域のにぎわい創出だけでなく、茶業の活性化にもつなげていくことが大切と考えています。

「観光客が増えれば、すぐにお茶が売れる訳ではない。でもここを訪れた人にとっての『この目で茶園を見た』『そこで生産者と話した』というような経験が、将来的に久野脇のお茶を買ってくれる決め手になるかもしれない」。

近道はないから、地道に。大切にするのは長期的な視点です。

描くこれから

「１年間活動してみて、区民も巻き込みながら、まずは地域について考え直すきっかけづくりができたと思う」と筒井さん。今後は、若い世代とも積極的に交流していきたいと話します。

「これからも取り組みを継続していくには、若い発想力が必要になるはず。若い衆もいろいろと忙しいだろうし、誘うのは少しためらう気持ちもあるけど、『年寄りが何か始めたな、ちょっと面白そうだな』と興味を持ってもらえるように、楽しんで活動していけたら―」。ＫＭ会の挑戦は続きます。

「恋がねの鐘」を制作

６月13日、恋金橋と久野脇区の集落の間に、「恋がねの鐘」が完成しました。

「構想７年、制作２週間」とメンバーが笑うように、ＫＭ会の発足前から数人の間で持ち上がっていたこの企画。「恋金」という地名にちなみ、「縁結びの里」のシンボルとなる鐘を設置しようと、制作が進められました。

宮大工の田端さんが架台を組み立てたほか久野脇区民の松下勝利さんが題字をデザインするなど、メンバーや住民がそれぞれの得意分野で共作した手作り作品です。

「恋金橋を渡って来た観光客が、集落を散策するきっかけになれば」と、メンバーも期待を寄せます。